

宇宙戦艦ヤマトの道をたどる小口径の旅 その2

銀河ステーション〜♪ という始まりの名作があります。夏用の小口径の旅は似たコースの銀河の旅です。出発地にふさわしい明るい星は何といてもベガです。

1. ベガ 単独星 25光年 ……主系列A型星

平凡なA型星(A0V型)ですが太陽に近いおかげで誰でも知っている明るい恒星です。シリウスより少し遠い分少し暗いです。普段はあまり見ないかもれませんが望遠鏡や大きめの双眼鏡で溢れるばかりの白い光を鑑賞するのも良いものです。

2. はくちょう座61番星 二重星 16光年 ……主系列K型星

主星5.3等K5V型、伴星6.1等K7V型、離角3.1秒。以前は色が同じ地味な二重星と思いましたが、主系列のK型星はこのくらい近くないと小口径の観望に適しません。そういう意味で貴重なペアです。星座の星としては地味なのでデネブからファインダで丁寧にたどります。

3. はくちょう座16番星 二重星 60光年 ……主系列G型星

番号がひっくり返っただけの地味な星? デネブから丁寧に探します。主星6.0等G2V型、伴星6.1等G5V型、離角3.9秒の二重星です。太陽はG2V型ですから主星はびたり同じ、伴星もほぼ同じです。60光年先の太陽はこの星と同じように6等位でしょう。小口径では黄色の星と実感できないかもしれません。すぐ隣に、低倍率では視野内に惑星状星雲のNGC6826があります。

4. こと座 ε星 二重星 150光年 ……主系列A型星のペア

等光・等色の二重星が2組で4星とも良く似ている奇跡の星です。ひとつめは5.0等A4V型~6.1等F1V型で離角が2.1秒、もうひとつは5.3等A8V型~5.4等F0V型で離角が2.4秒です。お互いは210秒離れていて双眼鏡二重星です。ただし、2秒強という離角はいうほど易しい二重星ではありません。気流が悪いと見えず、質の悪い小口径でも見えません。5センチで見えたら大したもの。ベガは0等ですがこちらは5等まで下がります。スペクトルも少し赤い側です。

5. はくちょう座 β星 二重星 400光年 ……K型巨星

アルビレオです。主星3.4等K3II型、伴星4.7等B0V型、離角3.5秒。少々間隔が広いのですが北半球では最高の二重星です。400光年になるとオレンジの星は巨星です。伴星が見事なB型の主系列で二重星として見やすい光度差にまとまっています。どちらも寿命の短い星なのでこのタイプは数が少ないです。

6. さそり座 β星 二重星 800光年 ……B型アソシエーション

少し望遠鏡は移動しますが800光年でぜひ見たいのが、さそり座～おおかみ座～ケンタウルス座にまたがるアソシエーションです。この付近にB型星が集中しています。距離はオリオン座中心部の半分です。星座の星がたくさんありますが代表として見事な二重星のさそり座のβ星を。主星2.6等B0V型、伴星4.9等B2V型、離角14秒。青の爽快なペアです。

7. さそり座 散開星団 M7 980光年

M6 1590光年

隣接する星団です。前のアソシエーションと違いぎゅっと締まるところが星団らしいところでしょう。夏の銀河で1000光年前後と言うと、M39、IC4665、NGC6633などの散開星団、惑星状星雲M27もあります。ここは明るい星団のペアを挙げておきます。近いので星がパラパラと見えます。

8. いて座 M8 散開星団と散光星雲 4300光年

次に2050光年にM23がいます。有名なM8は小口径で見えるのは星団で、右側の濃い部分は少し星雲も見えます。悪い空では意外に地味です。すぐ近くのM21も同じ距離です。この辺が著名な星雲星団の標準的な距離といえましょう。

9. たて座 散開星団 M11 6100光年

さそり座 球状星団 M4 7200光年

遠ざかると星団の星々が小さくなります。この2つは方向が少し違いますが是非比較をしてください。最強の散開星団と最弱の球状星団がほぼ同じ距離にいます。我家で小口径では地平高度の高いM11が圧勝できら星が美しく、M4は淡く見つけるのも苦労するほどです。M11の位置は解りにくく、アルタイルから右下に下がってたて座の平べったい冠座のような星々を見つけると導入できます。この辺の距離でもう一つ最強の散開星団を挙げるならばペルセウス座の二重星団です。

10. いて座 球状星団 M22 10400光年

夏の1万光年越えは有名なM22です。球状星団としてはまばらな方ですが、近いのでかなり良く見えます。高倍率での微星の分離も特に良い方です。

11. へび座 球状星団 M5 24500光年

さそり座 球状星団 M80 32600光年

銀河中心 約30000光年

2万光年を超える球状星団で見やすいのはこの2つです。自信をもってお勧めします。M5は小口径で少し分離するようです。M80は明るい球状星団ではもっとも集中度が高く分離しません。位置もよく容易に見つかるので空の状態を判断するのに役立ちます。銀河の中心部もこのへんの距離ですが、星間雲のちりの彼方で小望遠鏡で見える具体的なものがあるわけではありません。

12. いて座 球状星団 M75 67500光年 8.6等

いて座 球状星団 M54 87400光年 7.7等

銀河中心の約2倍の地点です。小口径で見えるのはここらまでです。どちらも特に難しい対象ではありません。M75の方が1等級くらいですが集中度Iという珍しい球状星団で、集中しているのでわりと見えます。このへんで大マゼラン雲までの半分の距離です。

13. いるか座 球状星団 NGC7006 135400光年

10.6等です。絶対に見えないとは言いませんが、中口径と暗い空が居るでしょう。大マゼラン雲の周辺に付属するであろう球状星団がこの位には見えるということでトライしましょう。

14. みなみのかんむり座、さいだん座・・・双眼鏡で

さそり座の南の端は、十分に高度が低く、気流が悪く良く見えません。減光も大きいです。これらの星座はなかなか見どころも多いのですが残念なことです。

15. 大マゼラン雲 15万光年

さらに、ケンタウルス座、十字架座、りゅうこつ座を経ます。ということで夏の銀河からはマゼラン雲は遠いです。

2013年4月